



DevPartner Studio

インストール ガイド

リリース 10.6.1

DevPartner Studio Professional Edition
DevPartner Studio for Visual C++ BoundsChecker Suite

Copyright © Micro Focus 2001-2012.
All rights reserved.

Micro Focus は、本書の作成にあたり、適切かつ正確であるよう最大限の努力を払っていますが、いかなるときも独自の判断で予告なく変更を行う権利を保有します。本書に記載のソフトウェアはライセンスに基づき提供されており、当該ライセンスの条件に従う場合のみ使用または複製できます。また、とりわけ Micro Focus ソフトウェア製品の特定期間への適合性に対する保証は明確に除外されており、Micro Focus はいかなる場合も、いかなる間接的損失に対する責任も負わないものとします。

Animator®、COBOLWorkbench®、EnterpriseLink®、Mainframe Express®、Micro Focus®、Net Express®、REQL® および Revolve® は登録商標です。AAI™、Analyzer™、Application Quality Workbench™、Application Server™、Application to Application Interface™、AddPack™、AppTrack™、AssetMiner™、BoundsChecker™、CARS™、CCI™、DataConnect™、DevPartner™、DevPartnerDB™、DevPartner Fault Simulator™、DevPartner SecurityChecker™、Dialog System™、Driver:Studio™、Enterprise Server™、Enterprise View™、EuroSmart™、FixPack™、LEVEL II COBOL™、License Server™、Mainframe Access™、Mainframe Manager™、Micro Focus COBOL™、Micro Focus Studio™、Micro Focus Server™、Object COBOL™、OpenESQL™、OptimalAdvisor™、Optimal Trace™、Personal COBOL™、Professional COBOL™、QACenter™、QADirector™、QALoad™、QARun™、Quality Maturity Model™、Server Express™、SmartFind™、SmartFind Plus™、SmartFix™、SoftICE™、SourceConnect™、SupportLine™、TestPartner™、Toolbox™、TrackRecord™、WebCheck™、WebSync™ および Xilerator™ は Micro Focus の商標です。その他の商標はすべてそれぞれの所有者の知的財産です。

Micro Focus の書面による事前の許可なく、CD-ROM に収録されているソフトウェア製品のユーザー マニュアルを除く、本発行物のいかなる部分も、あらゆる電子媒体または機械による読み取り可能な形式に複製、複写、再現、送信、転写、または還元してはなりません。変更された Apache Software Foundation ソース ファイルにアクセスする場合は、Micro Focus 担当員にお問い合わせください。

ライセンス保持者は、CD-ROM に収録されているソフトウェア製品のユーザー マニュアルを複製できますが、ライセンス契約に基づいて許可されたソフトウェアへのユーザー アクセスに対応する程度の複製に限定されます。部分的または全体を問わず、本マニュアルを再現する場合は、本著作権表示全体がそのままの状態に添付されていなければなりません。

U.S. 米国政府の限定権利。本ソフトウェアおよび本マニュアルは自費で開発され、そのいかなる部分も公有財産ではなく、かつこれらは、Federal Acquisition Regulations (連邦調達規則) およびそれらに対する担当局の付録に基づく限定権利を有する Commercial Computer Software (商用コンピュータ ソフトウェア) であると認識するものとします。アメリカ合衆国政府による使用、複製、または開示に関しては、The Rights in Technical Data の副段落 (c)(1)(ii)、DFAR 252.227-7013 の Computer Software の条項、または FAR 52.227-19 の Commercial Computer Software Restricted Rights の副段落 (c)(1) および (2) に規定された制約が適宜適用されます。契約者は Micro Focus、9420 Key West Avenue、Rockville、Maryland 20850 です。ソフトウェアの未発表部分については、米国著作権法に従って権利が保護されます。

2012年7月6日

目次

はじめに	5
対象読者	5
表記方法	5
補足情報	5
第1章 DevPartner Studio インストール	7
システム要件	7
サポートされている環境	8
Micro Focus 製品ライセンスの取得	9
DevPartner Studio のライセンスについて	9
インストールとリモート データ収集	10
DevPartner Studio ファイアウォール アラームのトリガー	10
インストール可能な機能	11
DevPartner Studio Professional Edition	11
DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite	11
BoundsChecker Standalone	11
Runtime Analysis	11
Performance Profiler	11
Visual Studio の side-by-side 実行	11
インストール	11
DevPartner Studio インストールのトラブルシューティング	13
DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行	13
第2章 インストールの保守	15
保守モードにアクセスする	15
インストールを変更する	15
インストールを修復する	16
インストールを削除する	16
索引	17

はじめに

このマニュアルでは **Micro Focus® DevPartner Studio®** ソフトウェアのインストール方法を説明します。

対象読者

このマニュアルは、**DevPartner Studio** をインストールするシングル ユーザーおよびコンカレント環境で使用するユーザーを対象としています。

このマニュアルでは、使用方法は説明していません。使用方法については、製品に付属のオンライン ヘルプや『**DevPartner Studio ユーザー ガイド**』を参照してください。

このマニュアルでは、ユーザーが **Microsoft Windows** インターフェイスおよび **Windows** ソフトウェアのインストールに精通していることを前提としています。この前提にあてはまらない場合は、このマニュアルの前に **Microsoft Windows** のマニュアルをよく読んでください。

表記方法

このマニュアルの表記方法は以下のとおりです。

- ◆ スクリーン コマンドやメニュー名などは、**太字フォント**で示します。次に例を示します。

[ツール] メニューから **[オプション]** を選択します。

- ◆ ファイル名は**等幅フォント**で示します。次に例を示します。

『**DevPartner Studio ユーザー ガイド**』 (**Understanding DevPartner Studio.pdf**) は...

- ◆ コンピュータのコマンドとファイル名内の変数 (ユーザーがインストール時に適切な値を指定するもの) は、**イタリックの等幅フォント**で示します。次に例を示します。

[移動先] フィールドに「**http://servername/cgi-win/itemview.dll**」と入力します。

補足情報

機能レベルのオンライン ヘルプを利用して、**DevPartner Studio** の機能や使用方法を参照できます。

また **DevPartner Studio** のコンポーネントについて、さらに詳しい情報が以下のように提供されています。Adobe Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルおよび **DevPartner Studio** リリース ノートは、Micro Focus SupportLine Web サイトの **DevPartner Studio** 製品ページ (<http://supportline.microfocus.com/>) や、**[スタート]>[すべてのプログラム]>[Micro Focus]>**

[DevPartner Studio] メニューからアクセスできる InfoCenter のリンクから入手できます。また、DevPartner Studio DVD にも収録されています。

- ◆ 『DevPartner Studio リリース ノート』には、DevPartner Studio の既知の問題とテクニカル ノートが記述されています。リリース ノートは、DevPartner Studio のインストール セットアップおよび DevPartner Studio InfoCenter から入手できます。
- ◆ 『DevPartner Studio ユーザー ガイド』は、DevPartner Studio の使用方法についての詳細が記載されています。
- ◆ 『DevPartner Studio クイック リファレンス』および『DPVC クイック リファレンス』は、DevPartner Studio Studio および DevPartner Studio for Visual C++ BoundsChecker Suite 機能の概要を説明しています。製品をすぐに使用するためのアドバイスも記載されています。
- ◆ 『DevPartner Studio エラー検出ガイド』では、Micro Focus DevPartner Studio エラー検出ソフトウェアの使用方法を理解できるように、コンセプトと手順について説明します。
- ◆ [Micro Focus ライセンスシステムの管理] ツールのオンライン ヘルプは、DevPartner Studio のライセンス管理について説明します。

第1章

DevPartner Studio インストール

この章では、Micro Focus® DevPartner Studio のシステム要件と、インストールについて説明します。

システム要件

DevPartner Studio リリース 10.6.0 (すべてのエディション) に必要な最小構成は、以下のとおりです。

表1-1. ハードウェア

プロセッサ	1.0 GHz Pentium IIIプロセッサ (32ビット) 以上 2.0 GHz Intel EM64T、またはAMDx64プロセッサ(64ビット)以上
メモリ	512 MB (32ビット) 1 GB (64ビット)
ディスクの空き容量	2 GB
ディスプレイ	1024x768、16ビット カラー
その他	DVD ドライブ

表1-2. オペレーティング システム

オペレーティング システム	エディション	ブラウザおよび IIS
Windows 7 (32ビットと64ビット)	Professional、Enterprise、Ultimate	Internet Explorer (IE) 8.0 (64ビット) IE 7.0 (32ビット) IIS 7.5
Windows Server 2008 R2	Standard、Enterprise	IE 8.0 IIS 7.5
Windows Server 2008 (SP2) (32ビットと64ビット)	Standard、Enterprise	IE 7.0以上 IIS 7.0、7.5
Windows Vista (SP1または SP2) (32ビットと64ビット)	Business、Enterprise、Ultimate	IE 7.0以上 IIS 7.0、7.5

表1-2. オペレーティング システム

オペレーティング システム	エディション	ブラウザおよび IIS
Windows XP 32 ビット (SP3)	Professional	IE 6.0 以上 IIS 6.x、7.0、7.5
Windows XP 64 ビット (SP2)		
Windows Server 2003 R2 (32 ビットと 64 ビット)	Standard、Enterprise	IE 6.0 以上 IIS 6.x、7.0、7.5
Windows Server 2003 (SP1 または SP2) (32 ビットと 64 ビット)	Standard、Enterprise	IE 6.0 以上 IIS 6.x、7.0、7.5

サポートされている環境

DevPartner Studio は、以下の環境のリリース バージョンをサポートしています。

メモ： サポートされている言語およびプロジェクト タイプの総合一覧は、『*DevPartner Studio ユーザー ガイド*』の「付録 B」を参照してください。

表1-3. Visual Studio との統合

バージョン	エディション	.NET Framework
Visual Studio 2010	Ultimate Edition、Premium Edition、Professional Edition、Test Professional Edition。Ultimate、Premium、および Test Professional の各エディションには Team Foundation Server が含まれています。	.NET Framework 4.0 (Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio 2008	Professional Edition、Team Edition for Software Architects、Team Edition for Software Developers、Team Edition for Software Testers、Team Suite	.NET Framework 3.5 (Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio 2005 (Base と SP1)	Professional Edition、Team Edition for Software Architects、Team Edition for Software Developers、Team Edition for Software Testers、Team Suite (64 ビット環境はサポートされていません)	.NET Framework 2.0 (Base と SP1)、3.0* (Compact Framework はサポートされていません)
Visual Studio Team Foundation Server	該当なし	該当なし

各環境にインストールされる機能の詳細については、「[インストール可能な機能](#)」(11 ページ)を参照してください。サポートされているすべての Visual Studio テクノロジーの詳細については、『*DevPartner Studio ユーザー ガイド*』を参照してください。

Micro Focus 製品ライセンスの取得

DevPartner Studio をトライアル期間を超えて使用する場合は、Micro Focus によって提供される認証コードが必要です。認証ファイルは、購入したDevPartner StudioのライセンスごとにMicro Focusより提供されます。

認証コードを取得するには、以下のホスト情報とともに、Electronic Product Delivery 電子メールから送信されたシリアル番号が必要になります。

名前付きユーザー（ノードロックされた）ライセンス：ライセンス供与される各システムからホスト名およびホスト ID（物理アドレス）を収集します。

コンカレント（浮動）ライセンス：ライセンス マネージャをインストールするシステムからホスト名およびホスト ID（物理アドレス）を収集します。

ホスト情報の収集

1 **[スタート]>[すべてのプログラム]>[アクセサリ]>[コマンド プロンプト]** をクリックして、Windows のコマンド プロンプトを開きます。

2 コマンド プロンプトで、`ipconfig /all` と入力し、**[Enter]** キーを押します。

IPconfig によりホスト名および物理アドレスを含む値のリストが返されます。

DevPartner Studio 製品ライセンス キーの取得

製品をダウンロードした場合、製品認証コードが電子メールによって送付されます。メディアを購入した場合は、認証コードまたは製品のシリアル番号がメディア パッケージに含まれます。認証コードは、SupportLine (<http://supportline.microfocus.com/>) の DevPartner ライセンス ページで製品のシリアル番号を入力して取得することもできます。

提供された認証コードを使用するには、Windows の **スタートメニュー** (**[すべてのプログラム]>[Micro Focus License Manager]>[ライセンス管理システム]**) から **[Micro Focus ライセンスシステムの管理]** ツールを開始します。ライセンス管理についての詳しい情報は、**[Micro Focus ライセンスシステムの管理]** のオンライン ヘルプに記載されています。

DevPartner Studio をインストールしたいが、まだ認証コードが届いていないという場合、DevPartner Studio を代理店からお求めになった場合、または既に Micro Focus ライセンスシステムの管理ツールで他の Micro Focus 製品ライセンスをお持ちの場合は、SupportLine のカスタマ ケア経由、または ASQ License Management 宛てに連絡のうえ、Product License Management にお問い合わせください。

Micro Focus 製品を自動または手動で認証させる方法を説明するビデオが SupportLine (<http://supportline.microfocus.com/licensing/LicensingStudio6.0LowExternal.wmv>) のページで参照できます。なお、このビデオはDevPartner のライセンス管理用ものではありませんが、DevPartner にも適用できます。

DevPartner Studio のライセンスについて

すべてのDevPartner Studio製品のソフトウェアライセンスは、Micro Focus ライセンス管理システム ツールを使って管理されます。ライセンス管理についての詳しい情報は、**[Micro Focus ライセンスシステムの管理]** ツールのオンライン ヘルプを参照してください。

DevPartner Studio ソフトウェアのライセンスについては、以下のことに注意してください。

- ◆ DevPartner Studio は、以下の3種類のパーマネント ライセンスのいずれかで実行できません。
 - ◇ ノードロック ライセンス (シングルシート ライセンス) と呼ばれるローカルにインストールするライセンス (ライセンス サーバーのインストールは必要ありません)
 - ◇ ネットワーク サーバーのライセンス マネージャ データベースに保存されるコンカレント ライセンス
 - ◇ ネットワークに接続されていないコンピュータで実行するボロー (借用) コンカレント ライセンス
- ◆ DevPartner Studio は、トライアル ライセンスを使用して実行できます。トライアル期間は、いずれかの DevPartner Studio 機能が使用された時点で開始します。

メモ: System Comparison は、DevPartner Studio ライセンスの下で機能します。System Comparison のユーザー インターフェイスを使用すると、その他の DevPartner Studio 機能がインストールされているかどうかに関わらず、トライアル期間が開始します。ただし、System Comparison サービスだけを起動して使用する場合は、ライセンスは使用されないため、トライアル期間は開始しません。

- ◆ DevPartner Studio では、コンカレント ライセンスについて、30 分間のアイドル セッション ライセンス タイムアウト ポリシーがサポートされます。コンカレント ライセンスが統合開発環境 (IDE) でホストされる DevPartner Studio 製品に対して使用されている場合、30 分間にわたって DevPartner Studio 機能が使用されないと (アクティブな分析セッションが存在せず、開いているセッション ファイルも存在しない)、ライセンスは解放され、ライセンス プールに戻されます。
- ◆ Windows のターミナル サービス接続を経由して DevPartner Studio を実行すると、1 ユーザーにつき1つのコンカレント ライセンスが使用されます。ノードロック ライセンスは、ターミナル サービス接続を経由した使用をサポートしません。
- ◆ Windows のリモート デスクトップ接続を経由して DevPartner Studio を実行すると、1つのコンカレント ライセンスまたはノードロック ライセンスが使用されます。
- ◆ 特定のバンドル製品の一部として DevPartner Studio を購入した場合、バンドル製品に含まれているすべての製品を、1つのライセンスで同時に使用できます。

インストールとリモート データ収集

リモート システム上でアプリケーションのコンポーネントを実行すると、リモート マシンからパフォーマンス分析、カバレッジ分析、メモリ分析のデータを収集して、DevPartner Studio がインストールされているユーザー/クライアント マシンでそのデータを表示することができます。リモート データ収集を行うために、追加のライセンスは必要ありません。

DevPartner Studio ファイアウォール アラームのトリガー

DevPartner Studio ソフトウェアは、Visual Studio で実行されている場合でも **DPAnalysis.exe** から実行されている場合でも、リモート マシンからセッション データを収集するために以前にインストールされたサービスに接続します。このサービスは、インターネット アドレス **0.0.0.0** ポート **18441** でプロセス間の通信トラフィックをリスンします。このサービスへの接続によって、ファイアウォール アラームが発生することがあります。このアドレスを信頼できるアドレスとしてファイアウォールを設定すると、アラームがトリガーされなくなります。ファイアウォールのセキュリティ レベルを最高に設定している場合は、

DevPartner Studio がリモート データ収集を実行できないことがあります。この場合はファイアウォールを再構成し、アドレス 0.0.0.0、ポート 18441 でのデータ交換を有効にしてください。

インストール可能な機能

DevPartner Studio Professional Edition

エラー検出、コード レビュー、パフォーマンス分析、カバレッジ分析、パフォーマンス エキスパート、メモリ分析、および System Comparison など DevPartner Studio 製品スイート全体が含まれています。

DevPartner for Visual C++ BoundsChecker Suite

エラー検出、パフォーマンス分析、カバレッジ分析、および System Comparison が含まれています。生産性を向上させ、パワフルなハイパフォーマンス Windows アプリケーションを迅速にビルドします。

BoundsChecker Standalone

エラー検出が含まれています。特にアンマネージ ソリューションにかつてないほど詳細なエラー分析を行います。

Runtime Analysis

パフォーマンス分析、カバレッジ分析、パフォーマンス エキスパート、およびメモリ分析が含まれています。ソース コードを収集して分析してテストされていないコードを効率的に検出し、アプリケーション パフォーマンスとリソースを最適な状態で利用します。

Performance Profiler

パフォーマンス分析とパフォーマンス エキスパートが含まれています。詳細なマネージ コード アプリケーション プロファイリングを行ってアプリケーションを微調整し、非常に検出されにくい実行時の問題でも見つけ、分析します。

Visual Studio の side-by-side 実行

DevPartner Studio インストール プログラムにより、DevPartner Studio がターゲット コンピュータで見つかった各 Visual Studio のサポートされているリリースの IDS にインストールされます。これにより、サポートされている任意の Visual Studio 環境で同時にコードを開発することができます。

DevPartner Studio のインストール後に Visual Studio のサポートされているリリースをインストールした場合は、いつでも DevPartner Studio インストールを修正できます。DevPartner Studio インストールの修正の詳細については、[第2章「インストールの保守」](#)を参照してください。

インストール

このセクションでは、インストールの準備情報を示した後、DevPartner Studio のインストール手順を説明します。

インストールの準備

DevPartner Studio のインストールを実行する前に、以下のことに注意してください。

- ◆ Visual Studio 2005 または Visual Studio 2008 Team System で DevPartner Studio を使用する場合は、DevPartner Studio をインストールする前に Visual Studio Team Explorer をインストールします。

メモ： 以前のバージョンの DevPartner Studio をアップグレードする場合は、そのバージョンの DevPartner Studio をアンインストールする前に、「[DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行](#)」(13 ページ) を参照してください。

DevPartner Studio をインストールするには

- 1 以前のバージョンの DevPartner Studio を実行している場合は、以前のバージョンの DevPartner をアンインストールし、コンピュータを再起動します(既存のコード レビュー データベースを維持するには、「[DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行](#)」(13 ページ) をアンインストールする前に DevPartner Studio を参照してください)。
- 2 Windows 管理者(「admin」) 権限のあるアカウントでログインします。DevPartner Studio をインストールするには、Windows 管理者権限でログインする必要があります。
- 3 ウィルス対策ソフトウェアを無効にします。

DevPartner Studio インストーラで使用するスクリプトによって、ウィルス対策ソフトウェアから警告が出されるおそれがあります。DevPartner Studio のインストール後、ウィルス対策を再度有効にしてください。

メモ： データ実行防止 (DEP) 設定が /NoExecute=Always On として設定され、CPU の Execute Disable Bit が有効になっているシステムでは、DevPartner Studio がインストールされないことがあります。データ実行防止機能の詳細は、[Microsoft サポート技術情報の文書番号 875352](#) を参照してください。

インストール後に、この設定を変更して AlwaysOn に戻すと、DevPartner Studio を Visual Studio にロードできなくなります。

- 4 DevPartner Studio DVD を挿入し、インストールを開始して、インストールする製品を選択します。DevPartner Studio Professional Edition をインストールする場合、DevPartner Studio または DevPartner System Comparison をインストールできます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。一連の画面に従って、インストール プロセスを進めます。

メモ： Windows インストーラは、**subst** コマンドを使用して作成された仮想ドライブへのインストールを禁止しています。DevPartner Studio は実際のハード ドライブだけにインストールしてください。

DevPartner Studio インストーラによって、Visual Studio のサポートされているリリースが検出され、デフォルトでは、すべての環境と互換性のあるすべてのコンポーネントがインストールされます。DevPartner Studio コンポーネントがインストールされないようにするには、[コンポーネントの選択]画面で、インストールしないコンポーネントを選択します。

インストーラで、新しいコード レビュー ルール データベースをインストールするか、既存のルール データベースを使用するかを確認するメッセージが表示されます。このオプションは、ルール データベースを共有している場合に役立ちます。以前のバージョンの

DevPartner Studio でビルドしたルール データベースを使用する場合は、「[DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行](#)」(13 ページ) を参照してください。

- 6 DevPartner Studio Professional Edition のインストール後、DevPartner System Comparison のインストールを促すメッセージが表示されます。これにより、コンピュータ システム間の相違、または同じコンピュータ上の別の構成間の相違を特定できます。

デフォルトで、System Comparison のインストールが開始されます。インストールの必要がない場合は、キャンセルできます。

対象のコンピュータに System Comparison のアップデート バージョンが存在する場合は、インストールは行われません。

DevPartner Studio インストールのトラブルシューティング

DevPartner Studio では、DevPartner Studio インストールの詳細情報として Microsoft インストーラ (MSI) のログをキャプチャします。そのログを調べれば、インストールの問題を診断できます。または、Micro Focus カスタマ ケアからサポートを受ける場合に、このログをカスタマ サポートのエンジニアに提供できます。

DevPartner Studio のインストールに応じて、このファイルは **DPSxxinstall.log**、または **DPVCxxinstall.log** (xx はリリース番号) という名前で、以下の場所に配置されます。

Windows XP システムおよび Windows Server 2003 システムの場合：

C:\Documents and Settings\\Local Settings\Temp

その他の対応オペレーティング システムの場合：

C:\Users\\AppData\Local\Temp

MSI ログのほか、以下の情報を準備してください。

- ◆ インストールしているソフトウェアとそのバージョン
- ◆ オペレーティング システムと Service Pack
- ◆ インストールされている DevPartner Studio ソフトウェアの旧バージョン
- ◆ 前のバージョンの削除に問題があったかどうか
- ◆ MSI ログを添付ファイルとして送信するかどうか
- ◆ インストール中に表示されたエラー メッセージの内容
- ◆ 完全な管理者権限のあるアカウントからインストールしたかどうか
- ◆ インストールをローカルまたはリモートのどちらで実行したか。 リモートで実行した場合は、使用したソフトウェア
- ◆ インストール前にウイルス対策ソフトウェアを無効にしたかどうか
- ◆ DEP 設定が /NoExecute=OptIn? と構成されているかどうか

DevPartner コード レビューのカスタム ルールとユーザー設定の移行

以前に DevPartner Studio をインストールしており、コード レビュー ルール データベースやプリファレンス データベースをカスタマイズしている場合、これらのデータベース ファイルを DevPartner Studio の現在のリリースに移行する必要があります。

移行手順の詳細については、カスタマ ケアにお問い合わせください。

第2章

インストールの保守

保守モードにアクセスする

必須： このセットアッププログラムを実行する前に、必須ではない Windows プログラムをすべて終了することをお勧めします。一部の Windows プログラムは、インストールプロセスに干渉する可能性があります。

Windows のコントロール パネルから保守モードにアクセスするには次の手順を実行します。

- 1 Windows の **[スタート]** ボタンをクリックし、**[すべてのプログラム]>[Micro Focus]>[DevPartner Studio]>[インストールの変更]** を選択します。DevPartner Studio インストール ウィザードが表示されます。

メモ： DevPartner Studio インストール ウィザードは、Windows の **[スタート]** ボタンからアクセスすることをお勧めします。

- 2 **[次へ]** をクリックします。**[プログラムの保守]** ページが表示されます。

ウィザードのこのページから、**[変更]**、**[修復]**、**[削除]** の 3 種類の保守モード オプションにアクセスできます。それぞれのオプションの詳細については、この章の該当するセクションを参照してください。

インストールを変更する

製品をアンインストールして再インストールする代わりに、オプションのコンポーネントを追加または削除して、DevPartner Studio のインストールを変更できます。

オプションのコンポーネントを使用して製品を変更する

- 1 この章の始めに説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 **[変更]** オプションを選択し、**[次へ]** をクリックします。**[コンポーネントの選択]** ページが表示されます。コンポーネントの追加や削除はこのページで行います。
- 3 各機能の隣にあるアイコンをクリックし、以下のいずれかの操作を行うために適したオプションを選択します。

ヒント： 個々の機能を選択すると、その機能に関する説明が **[コンポーネントの選択]** ページに表示されます。また、このページの **[ヘルプ]** ボタンをクリックすると、さらに詳しい情報が表示されます。

- ◇ その機能をローカル ハード ドライブにインストールする。
- ◇ その機能と、サブ機能のすべてをローカル ハード ドライブにインストールする。
- ◇ インストール時にその機能を選択できないようにする。このオプションを選択すると、以前にインストールされたコンポーネントはすべて削除されます。

- 4 **[次へ]**をクリックします。「プログラムを変更する準備ができました」というページが表示されます。
- 5 **[インストール]**をクリックします。インストールが開始されます。セットアップ プログラムにより、適切なコンポーネントが追加、または削除されます。

変更後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 6 **[完了]**をクリックして、変更を終了します。

インストールを修復する

DevPartner Studio のインストールが破損して、修復が必要になる場合があります。その原因は、不注意による削除やプログラムの破損が考えられます。**DevPartner Studio** のインストールを修復するには、以下の手順を実行します。

- 1 この章の始めの「保守モードにアクセスする」で説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 **[修復]** オプションを選択し、**[次へ]** をクリックします。「プログラムを修復する準備ができました」というページが表示されます。
- 3 **[インストール]** をクリックします。インストールが開始されます。セットアップ プログラムにより、適切なコンポーネントが追加、または削除されます。
- 4 修復後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 5 **[完了]** をクリックして、保守を終了します。

インストールを削除する

コンピュータから **DevPartner Studio** のインストールを削除する場合は、以下の手順を実行します。

- 1 この章の始めに説明した方法を使用して、保守モードにアクセスします。
- 2 **[削除]** オプションを選択します。**[次へ]** をクリックします。**[プログラムの削除]** ページが表示されます。
- 3 **DevPartner** コード レビュー ルール データベースのバックアップ コピーを保存するには、このチェック ボックスをオンにします。
- 4 **[削除]** をクリックします。セットアップ プログラムにより、**DevPartner Studio** のインストールが削除されます。
- 5 アンインストール後、コンピュータの再起動を求めるメッセージが表示されることがあります。コンピュータの再起動を求められた場合は、すぐに再起動するか、あとで再起動するかを選択できます。すぐに再起動することをお勧めします。
- 6 **[完了]** をクリックして、保守を終了します。

索引

D

DEP設定 [12](#)

DevPartner

アップグレード [12](#)

S

System Comparison ユーティリティ [13](#)

V

Visual Studio、DevPartnerの後にインストール [11](#)

あ

アクセス方法

保守 [15](#)

い

以前のバージョンの DevPartner [12](#)

インストール

製品インストールの修復 [16](#)

製品コンポーネントの変更 [15](#)

インストールの保守 [15](#)

か

カスタマ ケア [9](#)

管理者権限 [12](#)

さ

削除

保守 [16](#)

サポート [9](#)

し

システム要件 [7](#)

修復

保守 [16](#)

す

スクリプト、ウイルス対策ソフトウェアによる介入 [12](#)

て

データ実行防止の設定 [12](#)

と

トライアル ライセンス [10](#)

へ

変更

保守 [15](#)

ほ

保守

アクセス方法 [15](#)

削除 [16](#)

修復 [16](#)

変更 [15](#)

よ

要件 [7](#)

ら

ライセンス

 タイムアウト ポリシー [10](#)

 トライアル [10](#)

ライセンスのタイムアウト [10](#)

ライセンス ファイル

 インストール [9](#)

 カスタマ サポートを受ける [9](#)